

守山企業景況調査報告書

(第 60 回)

令和 6 年 7 月～令和 6 年 9 月期 実 績

令和 6 年 10 月～令和 6 年 12 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和6年7月～令和6年9月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 60 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	15	10	66.7%
製造業	12	7	58.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	16	12	75.0%
卸売業	5	3	60.0%
合計	60	43	71.7%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和6年7月～令和6年9月、見通しを令和6年10月～令和6年12月とし、調査時点は令和6年10月25日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和6年7月～令和6年9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた

数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和6年7月～9月期の調査結果では、業況、売上高、採算の3つの指標の数値が低下した。

<業況>

業況DIは▲25.6で前回調査の▲2.8から22.8ポイント低下した。業種別では、小売業▲20.0（前回調査比+13.3）、製造業▲42.9（前回調査比▲59.6）、建設業▲36.4（前回調査比▲48.9）、サービス業▲16.7（前回調査比▲16.7）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）と小売業は上昇、製造業、建設業、サービス業は低下、卸売業は横ばいであった。10月～12月期見通しは全体で▲18.9である。

<売上高>

売上高DIは▲18.6で前回調査の18.6から37.5ポイント低下した。業種別では、小売業▲20.0（前回調査比▲10.0）、製造業▲14.3（前回調査比▲47.6）、建設業▲18.2（前回調査比▲93.2）、サービス業▲16.7（前回調査比+3.3）、卸売業▲（前回調査比▲100.0）であり、サービス業を除く各業種で低下した。10月～12月期見通しは全体で▲19.0である。

<採算（経常利益）>

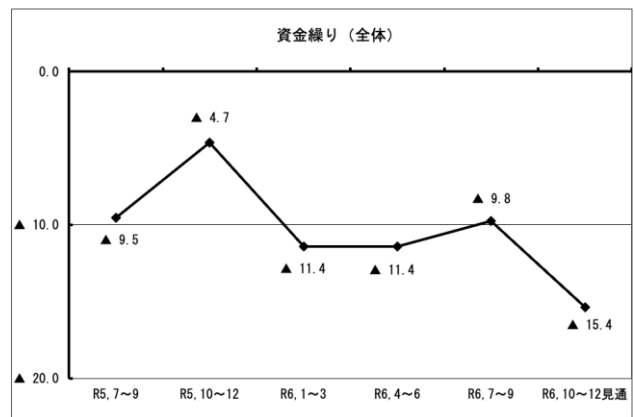
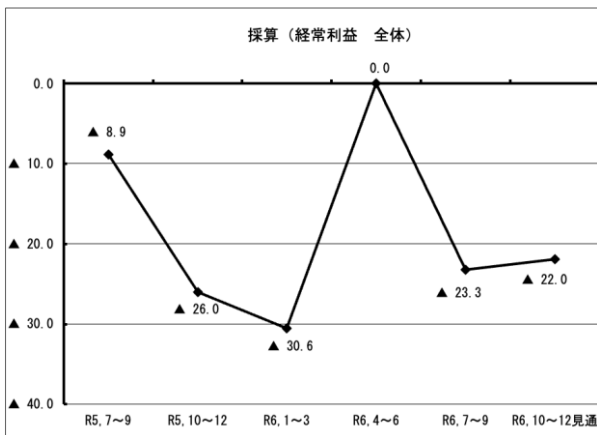
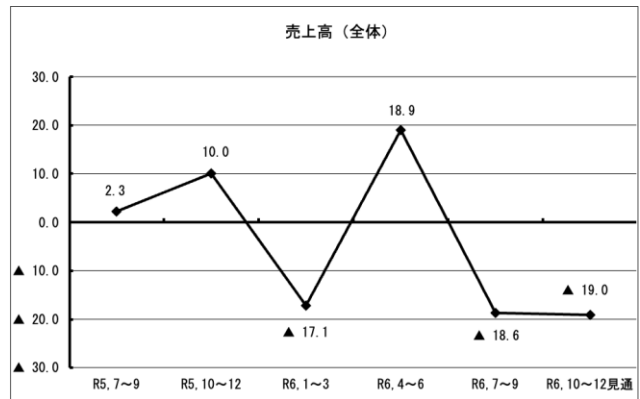
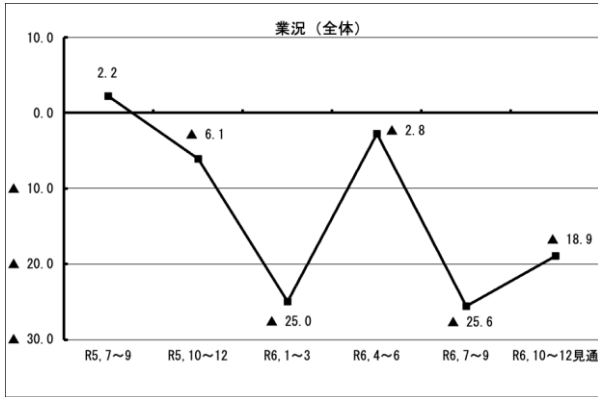
採算（経常利益）DIは▲23.3で前回調査の0.0から23.3ポイント低下した。業種別では、小売業▲30.0（前回調査比+10.0）、製造業▲42.9（前回調査比▲42.9）、建設業▲27.3（前回調査比▲77.3）、サービス業▲8.3（前回調査比▲8.3）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で小売業が上昇、製造業、建設業、サービス業が低下、卸売業は横ばいとなった。10月～12月期見通しは全体で▲22.0である。

<資金繰り>

資金繰りDIは▲9.8で前回調査の▲11.4から1.6ポイント上昇した。業種別では小売業▲20.0（前回調査比+20.0）、製造業14.3（前回調査比+14.3）、建設業▲30.0（前回調査比▲15.7）、サービス業▲9.1（前回調査比▲20.2）、卸売業33.3（前回調査比33.3）で小売業、製造業、卸売業で上昇し、建設業とサービス業は低下した。10月～12月期見通しは全体で▲15.4である。

物価高騰の影響などに対する意見

ユーザーは物価高、税金や各種諸経費が増え買い物を控えるか、より安い品へシフトしている。



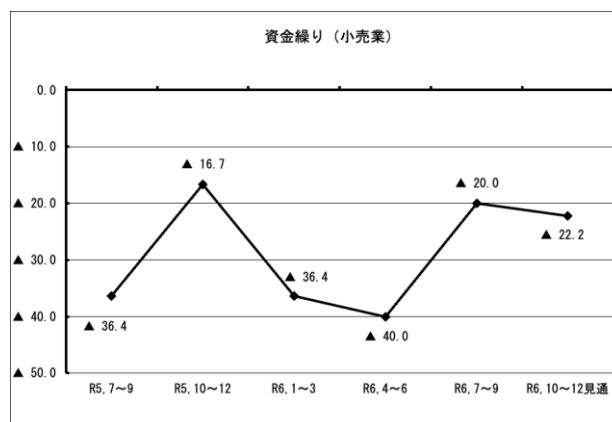
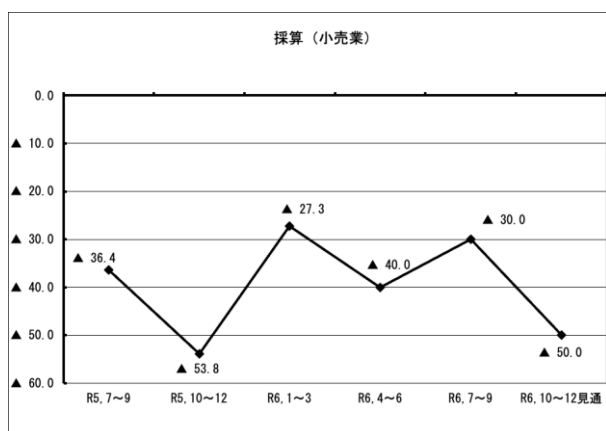
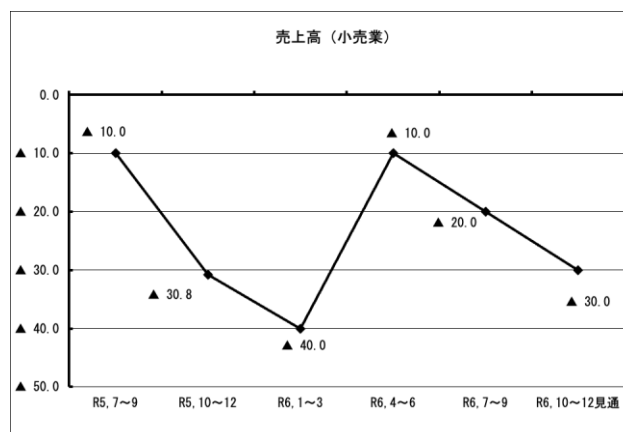
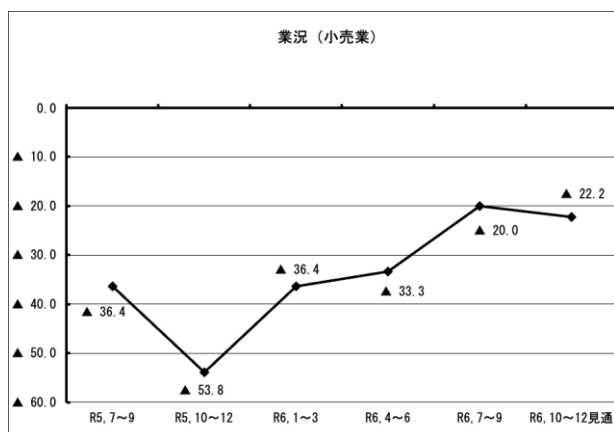
小売業

小売業の業況DIは▲20.0で前回調査に比べて13.3ポイント上昇した。3四半期連続の上昇である。令和5年10月～12月期を底に反転している。前回調査の7月～9月期見通しが▲20.0と見通し通りの数値になった。ただし、10月～12月期見通しは▲22.2と少し下げているので、これまでのように明るい予想ではなさそうである。

売上高DIは▲20.0で前回調査に比べて10.0ポイント低下した。前回調査で30ポイントの上昇だったか今回は逆に10ポイントの低下で上昇の波には乗れていないようである。10月～12月期見通しも▲30.0とさらに低下の見通しとなっており、再び低下の波に戻りそうである。

採算DIは▲30.0で前回調査より10ポイント上昇した。過去1年を見ると上下を繰り返しており、今回は上昇の順となったようである。10月～12月期見通しは▲50.0と大きく下げる見通しで採算は見通しが明るくない。

資金繰りDIは▲20.0で前回調査より20.0ポイント上昇した。小売業の資金繰りは比較的動きが激しいのが特徴的で20ポイント程度は上下するようである。10月～12月期見通しは▲22.2で動きとしては小幅である。



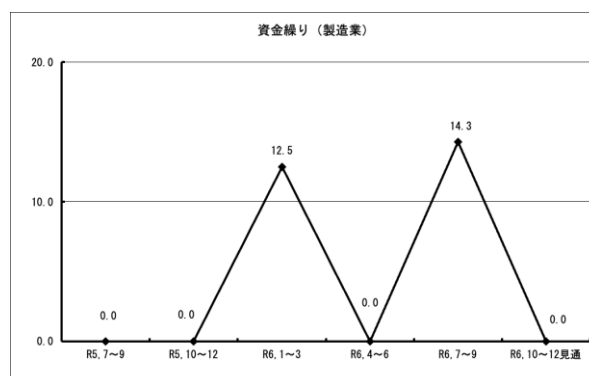
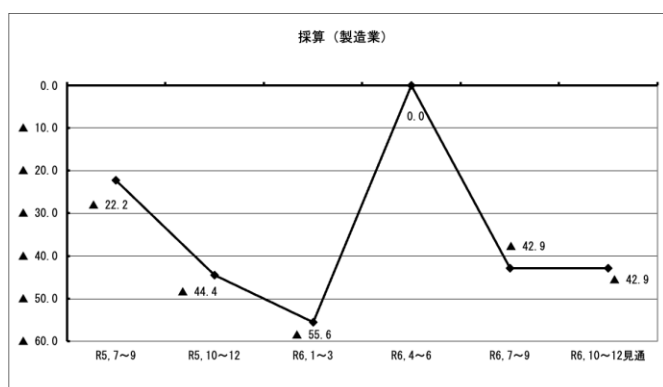
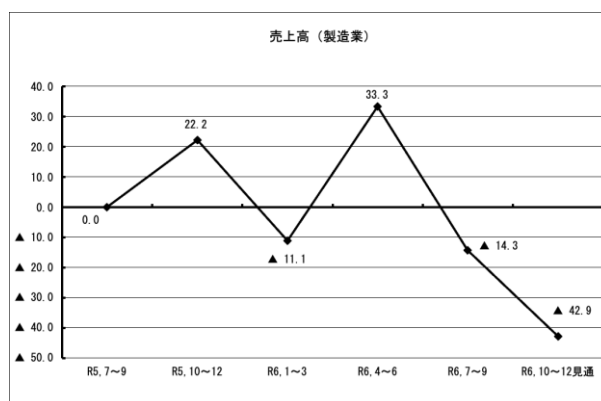
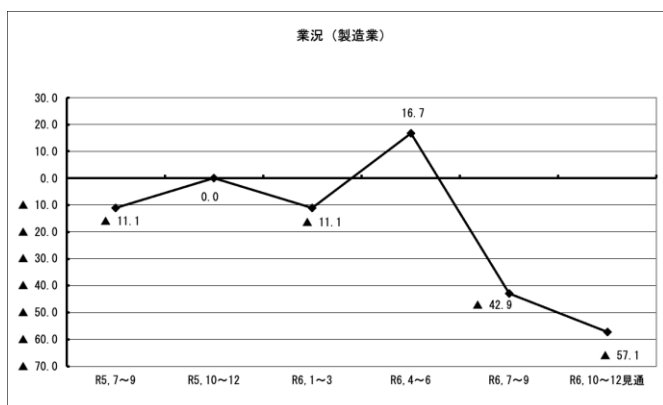
製造業

製造業の業況DIは▲42.9と前回調査の16.7から59.6ポイント低下した。令和5年4月～6月期の▲22.2が最近の最低値であったが今回調査ではそれを大きく下回る数値となった。一気に業況が悪化したといえる。10月～12月期見通しも▲57.1とさらに悪化を予想しており急激にかなり厳しい状況になったようである。

売上高DIは▲14.3で前回調査と較べて47.6ポイント低下した。売上高も業況と同じく急激に悪化したと考えられる。ただ前々回調査が▲11.1であったので、その分を戻しただけのようにすることもできるが、急激な低下は間違いのない事実である。10月～12月期見通しは▲42.9と大きく下げてはいる。

採算DIは▲42.9で前回調査に比べて42.9ポイント低下した。採算も業況、売上高と同様に大きな低下である。前々回調査が▲55.6であったことを考えるとその水準に戻したとも考えられる。また、前回調査が特異値であったとも考えられる。10月～12月期見通しが▲42.9なので採算も悪化したままでの見通しである。

資金繰りDIは14.3で前回調査より14.3ポイント上昇した。前々回調査で12.5で今回は14.3なのでこれくらいの範囲で動く数値のようである。10月～12月期見通しは0.0と低下はするが、マイナス数値にはならない見通しである。



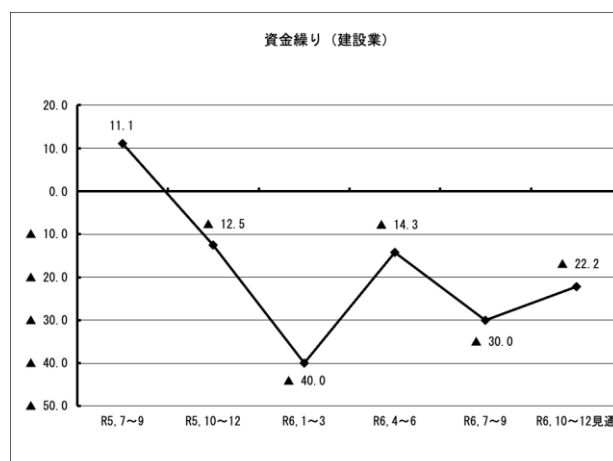
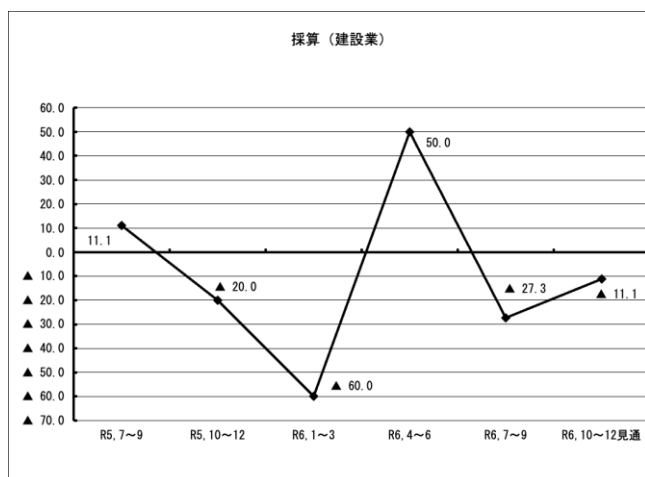
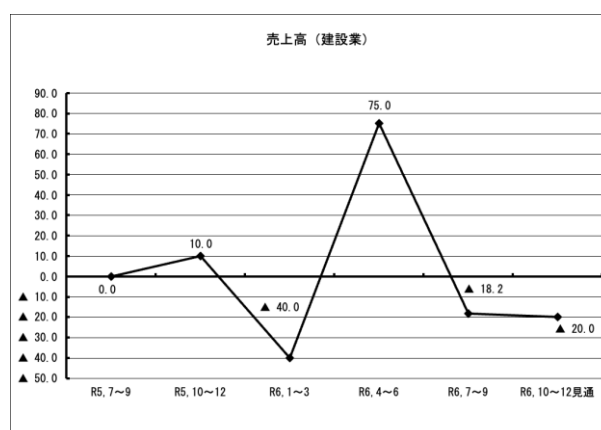
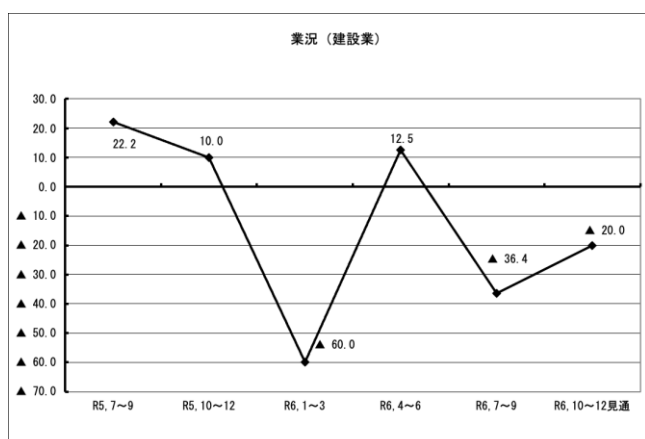
建設業

建設業の業況DIは▲36.4であり前回調査から48.9ポイント低下した。前回調査で72.5ポイント上昇したが、今回は逆に48.9ポイントの低下である。前々回調査の▲60.0までは低下しなかったが、大きな落ち込みであり注意が必要である。10月～12月期見通しは少し上昇の▲20.0であるが、回復というには力が弱い。

売上高DIは▲18.2で前回調査の75.0から比較すると実に93.2ポイントの低下である。前々回調査が▲40.0、その前が10.0と考えると、前回の75.0が特異値である可能性が高いと言える。10月～12月期見通しは▲20.0と今回調査と同じ程度の数値なので、今回調査の状態から大きく変わらないと予想されている。

採算DIは▲27.3で前回調査の50.0から77.3ポイントの低下であり、極端な動きを見せている。過去を見ると前回調査の50.0が極端に高い数値なので採算においても前回調査が特異値であった可能性がある。10月～12月期見通しは▲11.1で少し戻しそうな見通しである。

資金繰りDIは▲30.0で前回調査に比べて15.7ポイント低下した。前々回調査の▲40.0までは低下をしていないが、他の指標と同じように大きく低下する結果となった。10月～12月期見通しは▲22.2で少しは上昇の見通しである。



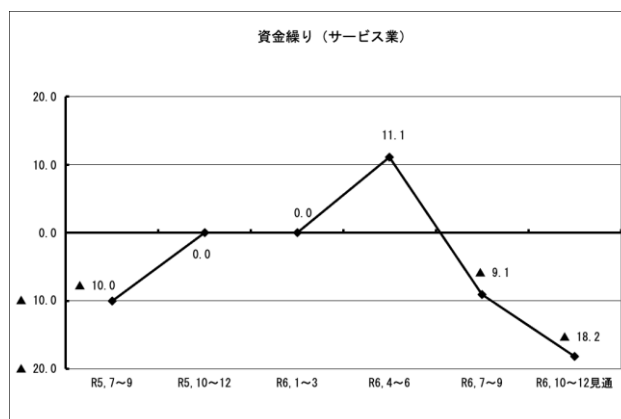
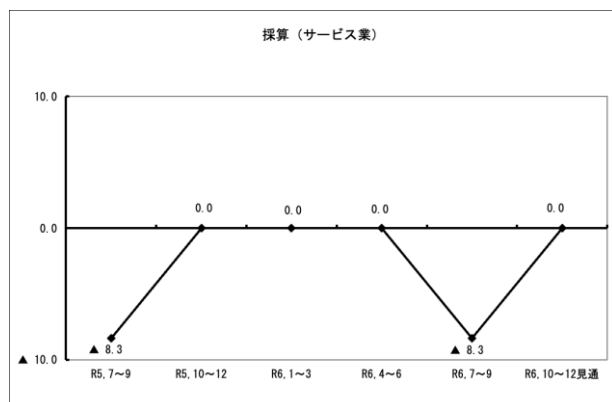
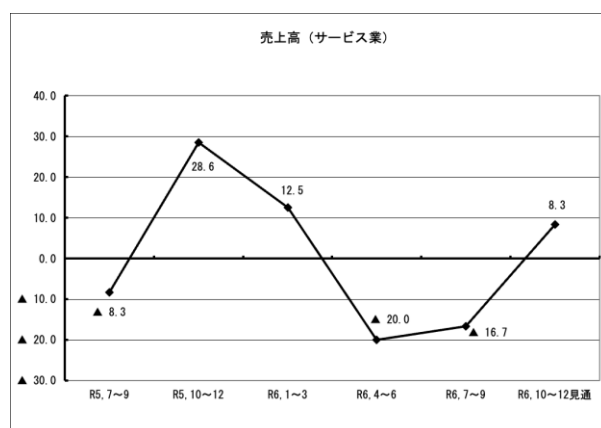
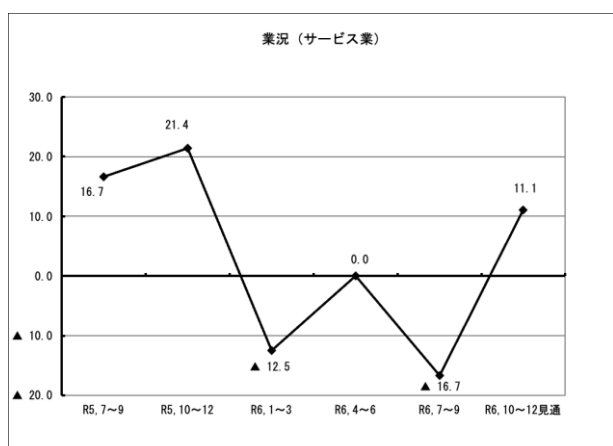
サービス業

サービス業の業況DIは▲16.7で前回調査に比べて16.7ポイント低下した。前回調査で12.5ポイント上昇した分を今回調査では低下させてしまった。令和5年中はプラスの数値が並ぶが令和6年に入り0.0を超えることがないので、令和6年の業況は良くなかったようである。しかし、10月～12月期見通しは11.1と上昇しているのので、年末に向けての巻き返しが予想されている。

売上高DIは▲16.7で前回調査より3.3ポイント上昇している。2四半期連続の低下からわずかながら反転し、今後の上昇の兆しのようなのである。10月～12月期が8.3と1月～3月期以来のプラスを見通している。

採算DIは8.3で前回調査より8.3ポイント低下した。3四半期連続で0.0から1年ぶりにマイナスの数値となった。ただ、10月～12月期の見通しは0.0に戻っていることを考えると、採算が悪化傾向にあるとは言えないと思われる。

資金繰りDIは▲9.1で前回調査に比べて20.2ポイント低下した。1年前の令和5年7月～9月期が▲10.0であったので、資金繰りも採算と同じように1年ぶりのマイナス数値である。ただ、10月～12月期見通しが▲18.2とさらに低くなっていることから、他の3指標と異り、資金繰りの見通しは明るくないようである。



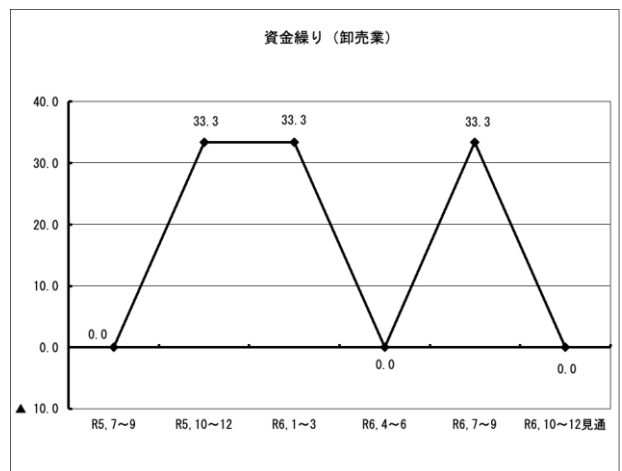
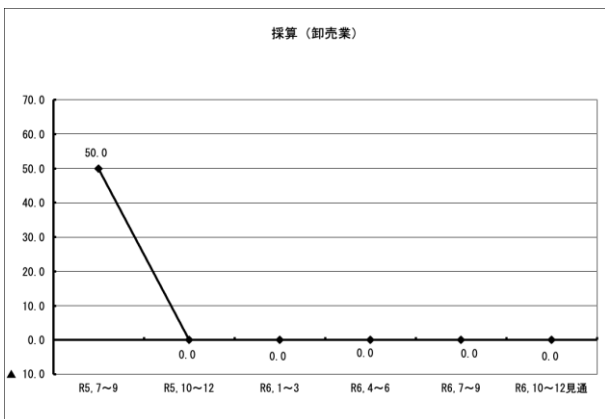
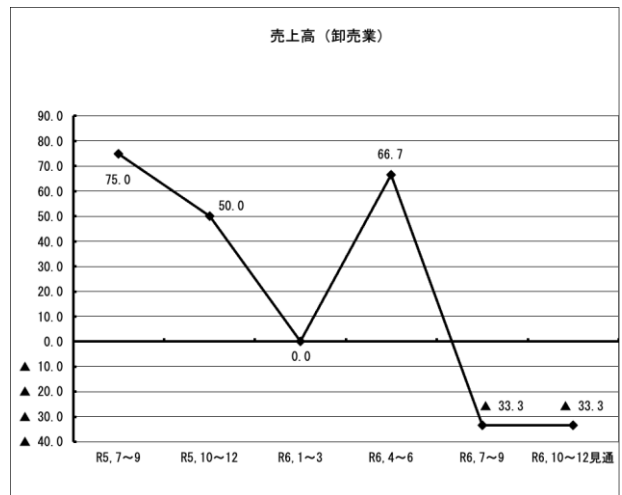
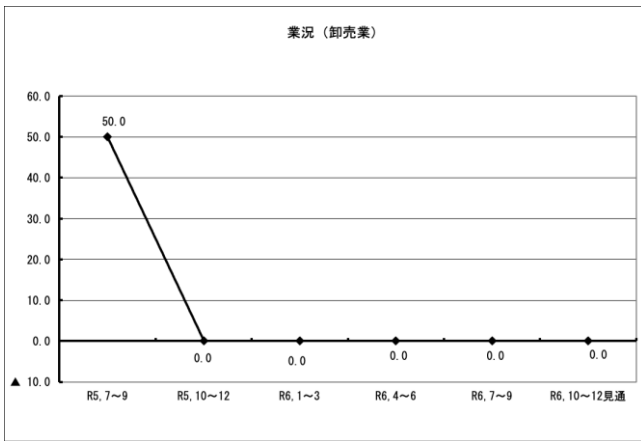
卸売業

卸売業の業況DIは0.0で前回調査と同じであった。4四半期連続の0.0である。令和5年7月～9月期に50.0になった業況DIであるが、その後は1年間0.0と動きがなく安定している。10月～12月期見通しも0.0である。

売上高DIは▲33.3で前回調査より100ポイント低下した。過去2年間マイナスの数値にならなかった卸売業の売上高DIがマイナスの数値になった。しかも前回調査より100ポイント下げているので急激に悪化したと考えられる。10月～12月期見通しも▲33.3で反転する見通しではない。

採算DIは0.0で前回調査と同じであった。これで4四半期連続の0.0である。1年前の令和5年7月～9月期の50.0以降は0.0であり、採算は安定している。10月～12月期見通しも0.0なので、大きな変化はなさそうである。

DI資金繰りDIは33.3で前回調査より33.3ポイント上昇した。卸売業の資金繰りは前回調査と1年前の令和5年7月～9月期に0.0になっただけで安定していると考えられる。10月～12月期見通しも0.0であり安定している。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	▲ 25.6	▲ 18.9	▲ 18.6	▲ 19.0	▲ 23.3	▲ 22.0
小売業	▲ 20.0	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 50.0
製造業	▲ 42.9	▲ 57.1	▲ 14.3	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 42.9
建設業	▲ 36.4	▲ 20.0	▲ 18.2	▲ 20.0	▲ 27.3	▲ 11.1
サービス業	▲ 16.7	11.1	▲ 16.7	8.3	▲ 8.3	0.0
卸売業	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	4.7	7.0	▲ 26.8	▲ 29.3	▲ 17.5	▲ 10.5
小売業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 12.5	▲ 12.5
製造業	▲ 14.3	14.3	▲ 28.6	▲ 42.9	28.6	28.6
建設業	18.2	18.2	▲ 36.4	▲ 18.2	▲ 50.0	▲ 50.0
サービス業	8.3	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 8.3
卸売業	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	▲ 9.8	▲ 15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲ 20.0	▲ 22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3
建設業	▲ 30.0	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
サービス業	▲ 9.1	▲ 18.2	11.1	11.1	11.1	11.1
卸売業	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

過去からの動向

